

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	3年 外国語活動 (7月) Let's Try!   Unit 4 4時間扱
①外国語活動の授業づくりの工夫 (中学年)	高知県香美市立大宮小学校 3年担任 中村 明莉 英語指導教員 加藤 かや

単元ゴールをみんなで作ろう



「今日から、形や色を勉強するよ。色や形を使ってどんなことができそう?」と子どもたちに問いかけました。すると子どもたちから、「自分の好きな色や形を伝えたい」「友だちに知ってもらいたい」「6年生にも」など、この単元を通してやってみたいこと(目的・場面)がたくさん出されました。子どもが主体的に、単元ゴールを考えることで、自分たちが本当にやってみたいことが明確になります。本校では、指導者が単元目標や、この単元で身に付けさせたいものをしっかり持ったうえで、全学年、単元の1時間目に単元ゴールを決め、学習を進めています。学年が上がるにつれ、目的・場面や状況が変化してきます。

また、伝えたい相手が友達から、他校の友達・中学生・高校生・香美市内のALT・オーストラリアの姉妹校へと広がってきます。

We are proud of KAHOKU!  
 ~好きな色・好きな形~

子どもと作った単元ゴールは、「自分の好きな色や形を知ってもらうために自分のフラッグを紹介しよう」でした。子どもはこれまで低学年で、ピクチャーカードや教室にある身近な色や形を使うことに言い慣れてきましたが、中学年では他教科等との関連で、地域にあるもの

を題材にして外国語活動に取り入れています。自分たちが暮らしている地域にあるからこそ、伝えたいことがたくさんあると思います。

第1時が終わった後、町探検(社会科)に出かけ、その往復で色や形をたくさん見つけてきました。自分たちの身の回りの色や形がピクチャーカードになることで、子どもの興味・関心が驚くほど変わってきました。本物の色・形がそこにあることで、「この色はなんと言えばいいのかな」「綿あめの形に似ているな」「Big square!」と、見方・考え方を働かせることができていました。子どもたちは、伝えたい色や形を既習の語句や表現から再構築していくことを楽しんでいるようでした。完成させたオリジナルフラッグを持って友だちに紹介をしている子どもの姿は意欲的であり、友達のフラッグの感想も自然に出てきていました。第4時の振り返りでは「はたが、みんなちがってました。その子に合う色や形だったから、はたとくちょうがあるんだなと思いました」「〇〇さんがナイスフラッグと言っていたし、(中略)わたしもまねをしたいと思いました」といった感想が出ていました。本物の色や形を扱うことで、互いのことを知りたい気持ちが高まっていったと思います。

【指導助言・アドバイス】

加藤教諭の実践から、「子供とともに作る授業」を心がけることが大切だと改めて気付かされます。ついつい単元目標も教師側から提示してしまいがちですが、子供達と考えることで、子供達が学習内容を自分事として捉え、学習に意欲的になりますね。ただ、何でも子供にお任せでは、授業として成立しません。どのようなゴールを設定すれば、子供達が意欲的に取り組むかを十分想定した上での、話です。そのためには、深い子供理解が欠かせません。外国語活動・外国語の指導にまだまだ自信がないという先生方、目の前の子供を十分理解し、他教科等の指導をされていることに自信をもち、お取り組みいただきたいです。

(文部科学省 視学官 直山 木綿子)

